第 379 回産業事情検討会（1 月 28 日開催）※Zoom によるオンライン開催

ショルツ新政権が起こす社会変革
－ドイツはどう変わり、世界をどう変えていくのか－

朝日新聞社　広報部主査　前ベルリン支局長　高野　弦氏

第 379 回産業事情検討会「要約と抜粋」に掲載されている写真はいずれも高野弦氏の撮影によるものです。

脱原発

この写真は放射性廃棄物の最終処分場を写したものです。地下 1000 メートルに掘られた穴で、もともとは鉄鉱石の採掘場であったのですが、もう何百万年も地震がないということでこの場所が選ばれました。ドイツは 2011 年福島の原発事故があった直後に原発から全て撤退すると意志決定し、今日まで着々と進みました。本年 2022 年が最後の年、12 月末には原発がゼロになります。解体された機構、部品、部材ものがこちらに運ばれてくるという手はずになっています。トラックなどがここを通ります。

上の写真は実際に廃棄物が置かれていく通路のようなところです。先ほどの大きな通路から蟻の巣のように張り巡らされているのがこうした穴となります。ここに 50 メートルずつ区切って廃棄物を入れていってセメントで固めて、また 50 メートルという風に埋めていくそうです。

これは 1000 メートル上の地表に出たところです。廃棄物からの放射線は 100 年後には 5%になりますが、周辺の地層と同じレベルになるまでには 100 万年以上かかると言われております。どうやってこの下に放射性廃棄物があるということを知らせ続けるのかというのが、今、ドイツ社会の大きな問題になっています。

ここの管理者の方にお話を聞きましたらこんなことを言っていました。

「100 万年後には人類はいなくなっているかもしれない。それでもなおここに廃棄物があると知らせ続けなければならない」

SF チックかつ哲学的なお話でした。

難民の人たちの社会包摂

シリアから来た難民が、今、どういう生活をしているのかを写しています。2015 年から 2016 年にかけてシリアなどから 100 万人を超える難民がドイツに来ました。彼らのうちの多くが、今、定職を得て働いており

ます。右の方、ヤンギンブリムコさんはシリアから逃げてきました。自分で洋服の仕立屋を開業して、今、立派に働いています。難民の労働力人口のうちの四人に一人がこうやって働いていると言われています。よく溶け込んでいるのはないかと思います。

右側の男性もシリアからの難民です。ドイツも日本同様少子高齢化を迎えておりまして介護士不足が問題になっていますが、ここに難民や移民の人たちを配置して働いてもらうという動きが活発化しています。

彼も地中海をゴムボートで渡ってきて「死ぬかと思った」と語っておりました。

難民、移民の統合教室です。すでにドイツの人口のうち、26%が、本人、もしくは両親のどちらかが、ドイツ国籍を持たずに、生まれてきた外国の人たちです。1960 年代のトルコ移民に始まりまして今まで何度か移民の人たちがドイツに入ってくる波がありました。ドイツ社会で現在問題になっているのは、平行社会というものです。外国人がドイツに来て、ドイツ社会と交わることなく、彼らだけで社会をつくってしまう。そういう事例が散見されるのです。これはドイツ社会の分断を招くものとして大きく問題視されています。

私の取材した事例を紹介しますと、トルコ移民の人たちだけでつくる政党がありまして、数万人の支持者がいます。彼らはドイツで投票権をもつ有権者なのですが、なんとトルコのエルドアン大統領に忠誠を

誓っているのですね。ドイツ政府の言うことに耳を傾けず、エルドアン大統領に従い、エルドアンが、選挙をボイコットしろと言うと、彼らは選挙をボイコットしてしまうのです。こうしたことが大きな問題になっています。

このような問題が生じてくるのを防ぐために、まずは無料でドイツ語を教えてもらって、その後ドイツ社会、政治制度、ドイツ文化、歴史をすべて無料で教える教室が開かれています。